

牛久：学校周辺に見る自然

第1号 牛久二小

2013年5月4日発行

＜ 春の生きもの観察 ～4年生と校庭を歩く ①植物一草 ＞

前週に続き天気が心配された5/1、時おり陽ざしもさして気持ちのよい観察日となりました。校庭にどんな生き物がいるか、何をしているかなど、春のようすをしっかりと観察してまわりました。



ワスレナグサに似た、かわいい花を咲かせるキュウリグサ。

上の写真は、葉をもむとキュウリのようなにおいがすることから、**キュウリグサ**といます。小さな花がたくさんついていますが、よく見てみるとワスレナグサと同じムラサキ科なかまの仲間であることが分かります。

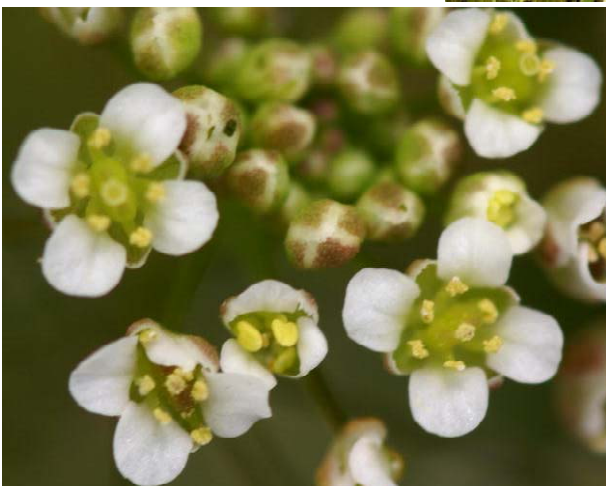


次はおなじみの**オオイヌノフグリ**(左上)と、よく似た**タチイヌノフグリ**(右上)。どちらもゴマノハグサ科で花のつくりは同じですが、大きさがまるで違います。またタチイヌノフグリは、その名の通り茎(くき)が立ち上がります。昨年使った2種類ならんで咲いている写真もごらん下さい(左)。**オオイヌノフグリ**(左)と**タチイヌノフグリ**(右)。花のつくりは同じだが、大きさはぜんぜん違う。



花が赤紫で目だつカラスノエンドウ(左)と、白い小さな花が集まってかたまりをつくるシロツメクサ(右)。どちらもマメ科の仲間で、花が終わると「豆」ができる。

こちらはマメ科の仲間でカラスノエンドウ(左)とシロツメクサ(右)。一見、違^い仲^{ちが}間に見えるかもしれませんが、一つひとつの花をくらべてみると、つくりが同じであることに気がつきます。どちらも花が終わると豆ができます。



アブラナ科の仲間、ナズナ(左)とアブラナ(右)。色は違うがどちらも4枚の花びらが十文字に並ぶ。

左はナズナ、右はアブラナ。どちらもアブラナ科の仲間で、花びら4枚が十文字に並びます。



キク科の仲間。上左：ノゲシ、上右：オニノゲシ、下左：ハルジオン、下中・右：オニタビラコ



こちらはキク科の仲間。どれも似たようなタネをつくり、^に綿毛わたげで風に乗って飛んでいきます。右下はオニタビラコですが、こんなへんてこな姿をしたものを見つけてくれました。タンポポやノゲシなどでも、茎が太くなったような変わりものが時々見つかります。またおもしろいものを見つけたら教えて下さいね。

キク科の仲間、セイヨウタンポポ。



シソ科のヒメオドリコソウ（左）とホトケノザ（右）。茎が四角いのと花の形に特ちょうがある。

上はシソ科の仲間、ヒメオドリコソウ（左）とホトケノザ（右）。シソ科の仲間は花もよく似ていますが、茎が四角いのも特ちょうの一つです。さわってみましょう。



ユリ科のきれいな花も見つけてくれました。**オオアマナ**です。ヨーロッパ^{げんさん}原産で、人が育てていたものの種子が飛ぶなどして野生化したと考えられています。花の中央が星型をしているので、イギリスではこれをキリスト^{しゅし}生誕を知らせたベツレヘムの星にたとえて、「スター オブ ベツレヘム」と呼んでいるそうです。

ユリ科のオオアマナ。



同様に、育てていたものが野生化した**ナガミヒナゲシ**も多く見つかりました。ケシ科で果実がやや細長いのでついた名^{かじつ}で、熟した果実を開くとまさしく「けし粒」、たくさんの細^{こま}かい種子が出てきます。花がきれいなので庭に植えたくるところですが、気をつけないとあちこち広がってしまいます。

最後に、ゴマノハグサ科の**トキワハゼ**。やや湿^{しめ}り気が多いところに生え、上のオオイヌノフグリなどと同じ科の仲間ですが、花の特ちょうはずいぶん違って見えますね。このような例もありますが、だいたい仲間の植物は花のつくりが同じと考えてよいでしょう。

【理科支援員：宮内】

ナガミヒナゲシ（左）とトキワハゼ（右）。

